

No.149

そとくうん

昭和51年12月15日創刊

宮城県登米農業改良普及センター
～人と技術が織りなす活力ある登米農業～

〒987-0511 宮城県登米市迫町佐沼字西佐沼150-5
TEL (代)0220-22-6111 FAX 0220-22-7522
E-mail : tmnokai@pref.miyagi.lg.jp
URL : <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin/>



○トピックス

- ・プロジェクト活動の紹介
- ・麦作共励会について
- ・いちご品評会について
- ・暑さ対策をしましょう
- ・令和8年度登米農業改良普及センター職員
主な担当業務の紹介
- ・普及センターの情報発信ツールについて

りんごの「V字ジョイント栽培」は作業の軽労化
や早期成園化を可能にする技術で、登米市内の
3人の生産者がこの技術を導入しています。

プロジェクト活動の紹介

No.1 次代を担うきゅうり生産者のステップアップによる生産性向上

登米市のきゅうりは夏秋・冬春きゅうりで国の指定産地になっています。園芸振興の一環として、JAみやぎ登米では令和10年度までに、きゅうり販売額10億円を目指しています。普及センターでは、若手生産者を中心に、栽培技術向上、環境制御技術の導入、新規生産者確保による面積拡大等に取り組みます。

○栽培基礎技術習得支援

JAみやぎ登米胡瓜部会の青年部に対し、栽培基礎技術の向上を支援します。

○環境制御技術取組推進

低コスト環境制御技術等の導入を推進します。

○部会活性化支援

面積拡大と部会の活性化に向け、新規生産者（新規就農者、農業法人等）の確保・育成を支援します。



No.2 水稻低コスト・省力化栽培技術導入による担い手の法人化及び組織の経営安定

登米市東和町の内ノ目地区では、令和8年度農業競争力強化農地整備事業（受益面積26.6ha）を活用し、農地整備を進めるため、普及センターでは、地域の農地を一括に管理する「地域まるっと中間管理方式」の導入や非営利の一般社団法人設立に向けた経営計画の検討、収益の柱となる水稻の低コスト・省力化栽培技術の導入、高収益作物の安定生産など、関係機関と連携し取り組みます。

○法人設立への支援

担い手法人設立に向けて、経営計画や就労規則の作成を支援します。

○低コスト・省力化稲作栽培技術の選択・導入支援

水稻の省力育苗、直播栽培、スマート農機を使った省力作業等の技術習得を支援します。

○高収益作物の栽培支援

加工用トマトの栽培技術向上を図るため、実需者と協力して試作を支援します。



まるっと中間管理方式勉強会の様子

No.3 環境負荷低減型水稻乾田直播栽培技術の確立

県では令和6年11月に「みやぎの環境にやさしい農産物認証・表示制度」において水稻乾田直播栽培の減農薬・減化学肥料の基準を設定しました。この基準に合った登米地域の栽培方法や省力化に向けた展示ほを設置し、栽培技術の支援を行います。

○施肥及び除草体系の検証

展示ほを設置し、雑草対策や肥培管理などの支援を行い、収量・品質の安定確保を目指します。

○省力化技術の導入・活用支援

栽培管理システムのAI解析による適期防除や衛星画像から生育状況を把握するとともに、可変施肥による生育の均一化を検証します。



栽培管理システムを活用した可変施肥ほ場の生育調査の様子

自動操舵をより快適にする

RTK（高精度測位サービス）のご案内

県ではRTK固定基地局を整備し、配信サービスを開始しており、登米地域も利用可能となっています。RTKはGPSの衛星に加え、地上の基地局からも測位して位置情報を補正するため、誤差が極めて小さくなります。県内でもトラクターや田植機の自動操舵等への活用が進んでおり、利用者からは「作業時間と負担が軽減した」などの声をいただいています。普及センターで導入支援を行いますので、興味のある方はぜひご連絡ください。

●測位方法による精度の違い



宮城県農林水産部 農業技術普及課 普及センターだより

全国麦作共励会で(株)エス・ティエフ佐藤瑛彦氏が表彰されました

麦作の生産技術向上や経営改善の面で優れた功績のあった個人・集団を表彰する「令和7年度全国麦作共励会」の表彰式が令和8年3月2日（月）東京で開催され、豊里町の株式会社エス・ティエフ代表取締役佐藤瑛彦さんが「日本農業新聞会長賞」を受賞しました。

佐藤さんは、スマート農業技術の積極的な導入や、実需者との直接的な交流によるニーズに即した小麦栽培の実践など、先進的な取組を展開されています。特に、生産技術の向上と経営改善を両立させた創意工夫が高く評価され、今回の受賞となりました。

3月16日に佐藤さんが当事務所を表敬訪問されました。佐藤さんは受賞の喜びとともに、「今回の受賞は周りのみんなの協力によって受賞することができた。今後もより品質の高い小麦生産に励んでいきたい。」と、これからの麦作への意欲を述べられました。

この度は、誠におめでとうございます。



「令和7年度宮城県農林産物品評会」で登米のいちごが入賞しました!

令和8年3月13日（金）～14日（土）に県庁（審査）及びイオンモール仙台上杉（展示）で「令和7年度宮城県農林産物品評会野菜（いちご）部門」が開催されました。

いちご部門は3年目の開催で、37点の出品があった中、藤欠徳和さん(米山町の「もういっこ」)が、見事、知事賞2等に入賞しました。昨年度の入賞からさらに順位を1つ上げる快挙となります。

藤欠さんは3年連続の受賞となり、登米市産品の品質の高さをアピールすることができました。また、JAいちご部会としても大変うれしい出来事となりました。

この度は、誠におめでとうございます。



農作業中の熱中症を防ごう!対策の基本と便利アイテムの活用

連日の暑さの中、農作業での熱中症予防は命を守るために不可欠です。対策の基本は、暑い時間帯の作業を避け、小まめな休憩と水分・塩分補給を行うことです。のどが渇く前に、20分に1回はコップ1杯の水分を取りましょう。

また、最新アイテムの導入も効果的です。身体に風を送る「ファン付きウェア」や、凍らせたペットボトルを利用する「水冷ベスト」は、身体の負担を大きく軽減します。ヘルメットや帽子に装着できる冷却インナーやファンも手軽でおすすめです。さらに、体温や水分バランスを計測し休憩を促す「ウェアラブル端末」の活用も検討してください。

1人作業の場合は、必ず家族などに作業の場所や時間を伝え、万が一に備えましょう。

真夏に限らず、梅雨時期や初夏でも熱中症は起こりえます。無理をせず、事前の準備で安全に作業を行いましょう。



4月～9月の期間
熱中症防止強化キャンペーンを実施

豚熱の発生を防ぐため、畜舎への野生動物の侵入防止と消毒を徹底しましょう!!

東部地方振興事務所登米地域事務所農業振興部・ 登米農業改良普及センターの紹介



スマホやパソコンで!普及センターのWEBサイトのご案内

普及センターでは、インターネットを活用した情報発信も行っています。パソコンやスマートフォンから、以下の情報をご覧ください。

- ホームページ
 - ・技術情報 (水稻・麦・大豆・果樹) の確認
 - ・本紙 (普及センターだより) の過去の記事の閲覧
- ブログ (Amebaブログ)
 - ・県内各地の普及センターの活動記録や地域の話



↑ 普及センター
ホームページ、ブログ

トピックス 魅力ある登米市の農泊を紹介! (地方振興部)

登米地域事務所では、田舎の風景や農業体験を満喫できる8つの施設を掲載した「宮城県登米市農泊マップ」を新たに作成し、登米ならではの農泊の魅力を発信しています。公式SNS (Instagram、X) などでご確認ください。また、ご興味がある方は農業振興部、もしくは地方振興部にお問い合わせください。

※農泊: 農山漁村地域に宿泊し、滞在中に豊かな地域資源を活用した食事や体験等を楽しむ「農山漁村滞在型旅行」のこと



↑ 農泊マップHP
公式SNS

